

| | | | | | |
|--------|---|------------|-----------|-------|------------------|
| 学校教育目標 | 自進力！西富岡 ～実感・共感・主体性～ | | | | |
| | 【実感】 ・体験的な活動の充実を図り、実感を伴った理解につながる学びを目指します。(知) ・自分とつながる様々な人やものとかかわりながら、自分のよさを実感する力を育てます。(徳) 【共感】 ・授業の中で互いの意見を認め合いながら学ぶ態度を育てます。(知) ・身近な自然や人との交流を通して共感する心を大切に、豊かな感性や思いやりの気持ちを育てます。(徳) 【主体性】 ・規則正しい生活や楽しく運動する習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ・地域に愛着をもち、自分ができることを進んでしようとする態度を育てます。(公) ・多様な人とのコミュニケーションを通して視野を広げ、持続可能な社会の創造に向け行動しようとする態度を育てます。(開) | | | | |
| 学校概要 | 創立 50 周年 | 学校長 黒田 由希子 | 副校長 棟朝 一機 | 2 学期制 | 一般学級：18 個別支援学級：4 |
| | 児童生徒数： 582 人 主な関係校： 富岡中、能見台小、能見台南小、富岡小、さわの里小 | | | | |

| | | |
|-----------------------------|---|--|
| 教育課程全体で育成を目指す資質・能力 | 富岡中ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| 実感する力 共感する力 主体的に取り組む力 | 富岡中学校 富岡小学校 西富岡小学校 能見台小学校 能見台南小学校 | TWO YOU」優・「自己にも他者にも思いやりのある子」 勇・「未来を見すえ、一歩踏み出し、表現できる子」 富岡中ブロック自分づくり教育を推進する。 合同授業研究や土曜参観を通じて、教務主任、児童生徒指導専任、養護教諭による相互評価を確実に行う。 子ども像を共有し、情報共有を図りながら生徒指導上の問題や学力不振を改善する。 |

| | |
|--------|---|
| 中期取組目標 | ○「自ら問いを見つけ、本気で考えを深め、自らの言葉で語る子どもの育成」を目指し、授業改善を進めます。 ・3年間を通して、どの子どもも安心して自分らしさを発揮し、学ぶ楽しさが実感できる授業づくりに取り組みます。 ・3年間を通して、子どもの考えを生かしながら、協働して主体的に問題解決をしていく授業づくりに取り組みます。 ○子どもたちが自他のよさに気づき、思いやりの心をもってよりよい人間関係を築こうとする姿勢を育てます。 ・3年間を通して、身近な自然や様々な人とかかわり、本物に触れる活動や体験を大切に、心豊かな学校生活を送れるようになります。 |
|--------|---|

| 重点取組分野 | | 具体的取組 |
|----------------|-------------------|--|
| 知 | 授業改善 | ①重点研のテーマを「自ら問いを見つけ、本気で考えを深め、自らの言葉で語る子どもの育成」とし、社会科・生活科を中心に、子どもの考えを見取り、子どもの思考を大切に授業展開を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。②授業研究を通して、子どもの主体性を引き出すための学習課程を検討し検証する。③授業の振り返りを大切に、子ども自身が学びを自分ごととしてとらえ、学んだことを実感・共感しながら深めていくことができるようにする。 |
| 担当 | 重点研推進 | |
| 徳 | 道徳教育 | ①全教育活動の中でふれあいや体験活動を重視し、自他を大切にする思いやりの心情を育てる。②「特別の教科道徳」では、各学級年に1度は授業を公開し、道徳教育の充実を図る。③たてわり活動を充実させ、6年生をリーダーに小集団を基本とした活動を通して、主体性、思いやりの心を育てながら自己有用感を高める。④友達や地域とのつながりを大切に、自ら進んであいさつができるようにする。 |
| 担当 | 道徳推進教師・道徳部 | |
| 体 | 健康教育 | ①市体力・運動能力調査、市学力・学習状況調査の生活・学習意識調査を分析し、生活習慣の改善に向けて、学校保健委員会等を通して児童が課題解決を図る機会を設定する。 ②西富タイム(短縄や長縄)を計画的に実施し、楽しみながら運動する習慣を身に付け、体力の向上を図る。 |
| 担当 | 体育・保健・食育 | |
| 公開 | 自分づくり教育 キャリア教育 | ①「自分づくりパスポート」を活用し、自分に合ったためあてをもち、めあてに向かって活動に取り組むようにする。振り返りを大切に、自分の成長やよさを実感できるようにする。②自分の役割を明確にし、責任を果たしたり、頑張りや成長を仲間と認め合ったりする経験を重ね、自己有用感を高める。③社会科や生活・総合の時間などを通して身近な課題や社会の課題に触れ、自分のできることを考えるようにする。 |
| 担当 | 特活・キャリア | |
| いじめへの対応 | | ①いじめ防止対策委員会を月に1回以上開催し、積極的にいじめを認知するとともに、再発防止、未然防止の検討を組織的に行う。②いじめについての研修を行い、教職員のいじめに対するアンテナを高める。③定期的に児童のいじめアンケートを行い、その結果を共有しながら少しの変化も見逃さない体制づくりをする。 |
| 担当 | いじめ防止対策委員会 | |
| 人材育成・組織運営(働き方) | | ①経験の浅い教職員でメンターチームを組織し、ミドルリーダーの助言のもと、月1回の活動を継続して行う。②高学年では教科分担任を行いながらチーム学年経営体制を推進し、人材育成を行う。③ミラียมや電子申請システムの活用、外部委託などを行い、業務の精選、効率化、情報の共有化を図りながら、教職員の働き方改革を推進する。④週に1回教務会を行い、学校リーダーとして学校全体を見通しながら積極に学校運営に参画していく場とする。 |
| 担当 | 教務・メンターチーム | |
| 地域学校協働活動 | | ①地域の人や材を生かした学習を行い、学びを広げたり、地域への愛着を深めたりする。 ②学校運営協議会を定期的に開催し、保護者・地域と学校教育目標を共有するとともに、様々な教育課題について意見を交換し、学校教育に反映させていく。 ③授業参観や懇談会、学校説明会、学校・学年だより、学校ホームページ等を通して保護者や地域に日々の教育活動等を具体的に発信し、学校教育への理解を深める。 |
| 担当 | 教務部 | |
| 特別支援教育 | | ①支援の必要な児童について個別の支援計画・指導計画を作成する。②校内委員会を定期的に開催し、児童の状況や支援方法について共通理解を図るとともに、教職員全体で情報を共有する。③一般級にいる支援を必要としている児童に対して特別支援教室「あおぞら教室」を設け、一人ひとりのニーズに合わせた指導を行う。 |
| 担当 | 特別支援 | |
| 児童生徒指導 | | ①「西富スタンダード」について、全教職員で内容の共通理解を図りながら指導にあたる。②定期的に児童の情報を全教職員で共有し、学校カウンセラーやSSW、関係諸機関と連携して問題解決にあたる。③Y-Pアセスメントや日常の児童観察から実態を把握し、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用し、受容的な学校・学級風土をつくる。 |
| 担当 | 児童指導部 | |
| 幼保小連携 | | ①幼・保の育ちと学びを生かし、スタートカリキュラムを行い、なめらかな接続を図る。②幼保小職員同士で情報交換、授業参観、施設見学を行うなど交流を促進し、連携を深める。③様々な機会を捉えて小学校1年生と年長児の交流を推進する。 |
| 担当 | 幼保小 | |